



北小河内区中村地区の土砂災害



決壊した天竜川北島地区

特集

# 豪雨災害から10年 ～災害の教訓を未来にいかす～

## 平成18年7月豪雨災害 町内の主な被害

- 北小河内区中村地区において大規模な土石流が発生
- 天竜川の堤防が決壊
- 負傷者軽傷3人
- 家屋等建物被害74棟（半壊から床下浸水）

●災害時の総雨量 306mm 【例年の7月の総雨量より多い】

あの日から10年——平成18年7月、日本各地を豪雨が襲い、箕輪町でも大きな被害を受けました。10年がたち、そのとき感じた危機感が薄れつつあるかもしれません。若い方々の中には災害を直接知らない方もいるでしょう。

この機会に災害の教訓を学び、あらためて自分やご家族、近所の皆さんなどの安全安心について考えていただけるよう、災害当時、対応にあたった方々のインタビューや、5月12日に開かれた「箕輪町安全安心の日の集い2016」についてのレポートをお送りします。

災害後は、避難所の運営も含めて訓練を重ね、住民台帳も毎年更新し、要援護者の把握などに努めています。北小河内区はセーフコミュニティの最初のモデル地区でもあり、毎月18日を防災の日と定め、区内放送で防災意識の高揚をはかっています。

災害は、いつでも、どこでも起こる可能性があります。そのことをいつも意識して過ごしていきます。

雨がずっと降り続き、7月19日の未明に中村地区で大規模な土石流が発生しました。

何もかもが初めてのことで、苦労しました。特に大変だったのは避難所の運営で、避難者の把握や統制、高齢者や乳幼児、障がいのある方などへの配慮が十分にできませんでした。

### 避難所の運営に苦労



防災士箕輪町連絡会会長  
丸山 全一さん  
(当時の北小河内区長)

インタビュー

## 豪雨災害をふりかえって

災害時に最も重要なのは指揮命令系統ですが、非常時には、本来の指揮命令系統では対応しきれないことがある、ということを実感しました。臨機応変な対応が必要となりました。

被害を最小限に食い止めるのと同時に、団員の身の安全を確保することも大事でした。今後とも団員の方には、周りの状況を確認し、安全確保しながら作業してほしいと思っています。

雨が降り続き、至るところで氾濫していたので、各分団に指示して土のうを積みました。しかし、一度積んでも、次の日には流されていて、同じ作業を繰り返さなければならず、団員は大変だったと思います。

### 消防団の使命と団員の安全



消防参与 平澤 久一さん  
(当時の箕輪町消防団長)

# この10年間の防災・減災の取り組み

この10年で  
変わったことは？

## ハード

### ■ 砂防堰堤えんていの建設

土砂等をくいとめるため、北小河内区に建設しました。土砂がたまることで、これ以上たまると危険だということがわかり、災害が起こる前に対応ができるようになりました。



### ■ 天竜川に消波ブロックを設置

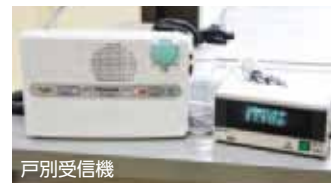
常に河畔に置いておくことで、決壊しそうになった時、その消波ブロックを堤防に投入して決壊を防ぐ、という迅速な対応ができます。

### ■ 町内6か所に雨量計を設置

雨量計をながた荘、北小河内公民館、富田公民館、町役場、長岡公民館、福与公民館に設置しました。最近では局地的に激しい雨が降ることがあるので、6か所に設置し、そのデータを災害時等の対応に役立てています。また、その情報は一般の方でも町HPで見ることができます。

### ■ デジタル防災行政無線の整備

デジタル化により双方向通信が可能になるなど機能が増え、より確実に情報を伝えられるようになりました。



戸別受信機

### ■ 各区・学校に防災倉庫を設置

様々な物資や器具を保管、備蓄しています。



## ソフト

### ■ 自主防災組織の結成

各区で、災害時の対応を主導する対策本部的な組織で、町との連携や防災倉庫の備蓄品の管理も行います。

### ■ 災害時住民支えあいマップづくり

お年寄りや体の不自由な方など支援を必要とする人を把握し、災害時の救助・援助に役立てます。

### ■ ハザードマップの作成

河川の氾濫はんらんによる浸水想定区域と土砂災害の危険区域・警戒区域、そして避難所を表示しています。

### ■ 防災士の養成

町が費用を負担し、防災士を養成。地域で防災・減災リーダーとして活動します。

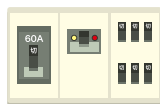
# これからの防災・減災の取り組み

一人ひとりが  
できること

箕輪町セーフコミュニティ推進協議会「くらしの安全対策委員会」を中心に、つぎの取り組みを進めます。

### 感震ブレーカー設置の推進

地震後、真っ先に電気等が復旧しますが、倒れた電気器具などに通電し、火災が起きることがあります。感震ブレーカーは、それを防ぐよう、揺れを感じるとブレーカーが落ちる装置です。



### 家具の転倒防止

- ◎寝室に背の高い家具を置かない。
- ◎高いタンスの上などは、つっぱり棒をするか箱などで天井まで空間を埋める。
- ◎本棚などは重いものを低い所に入れ、重心を下げる。



### 非常持出袋の用意 備蓄の推進

非常持出袋は、車にも一つ置いておくと安心です。





# 箕輪町安全安心の日の集い 2016



5月12日、セーフコミュニティ推進協議会が「箕輪町安全安心の日の集い2016」を町文化センターと地域交流センターで開催しました。この集いには、約150人が参加。テーマ別の分科会と全体会を行い、SC国際認証の再取得を目指して町ぐるみで取り組む必要性を共有しました。

ワークショップ形式で行われた分科会では、現状の問題点を抽出したり、今後の活動の参考となる意見や対策など、活発な意見交換が行われました。



- テーマ1 高齢者の「交通事故」どうすれば減るの？
- テーマ2 高齢者の「地域での支え合い」どうするの？
- テーマ3 子どもの見守りを地域で進めるには？
- テーマ4 備えてますか？あなたを救う「命のカプセル」
- テーマ5 「悩んでいる人」に寄り添う

劇団メタボによる寸劇「地域活動 女性パワーで道開く」が披露されました。災害時の避難所運営における女性の活躍、協働などを劇に仕立てたステージは、笑いあり、共感ありで好評でした。



## 『富田地区安全安心推進協議会』が、日本セーフコミュニティ推進機構から奨励賞を受賞

2013年の発足以来、地域の安全安心について主体的に取り組みを行い、「ヒヤリハットマップ」を作成して地域住民へ配布するなど、セーフコミュニティの普及・推進に寄与したとして、今回の受賞となりました。



### 講評

日本セーフコミュニティ推進機構  
白石 陽子 代表理事

このような集いは、他の自治体にはない箕輪町独自の取り組みです。行政主体だったものが地域の自主的な取り組みにつながり、参加者も増え、取り組みが活発になってきています。若い世代から町全体へ広げて行くことを願います。

### 挨拶

セーフコミュニティ推進協議会 会長  
白鳥 政徳 箕輪町長

活発な意見が飛び交い、深みのある議論ができました。再認証へ向けて、過去を振り返り、データ収集・分析を進めていきます。認知度や地区による温度差など課題はありますが、町民の皆さんと一丸となって安全安心の町を目指していきます。

問合せ先 総務課 セーフコミュニティ推進室 ☎79-3111 (内線193)